

## 1 まちづくりの担い手となる人づくり

まちづくりとは、市民が他の市民やNPO等の団体、関係機関、企業などとともに、地域社会の形成に積極的に参画し、互いに認め合い、支え合いながら地域の課題解決を図っていく活動です。

都市化の進展、産業構造の変化、生活意識や価値観の多様化、生活圏の拡大等により、市民の地域への帰属意識が薄れつつある今こそ、主体的にまちづくりに参画し、「自分のまちは自分たちの手で創っていく」という意識を持ち行動できる人づくりが必要です。そのためには、市民の生活課題や地域課題に視点をおいた、まちづくりにつながる多様な学習の機会が用意されていなければなりません。

また、まちづくりとは継続的なものであることから、学習活動も一体的かつ継続的に行われるものであり、その形態は体験型、参加型等、市民が主体的、実践的、行動的に学習できるプログラムでなければなりません。さらには、こうした学習情報が適切に整理され、誰もが求めやすい形で提供されることも重要な課題です。

## 2 市民活動の促進につながる環境づくり

市民参画によるまちづくりを現実のものにするには、市民の学んだことを地域課題の解決につなげることが重要です。

そのためには、市民の学習が単に知識の習得に終わるのではなく、学んだことをボランティア活動や地域の課題解決に向けた市民活動に発展させていく仕組みづくりが必要です。

また、市民同士がお互いを理解し合い、協力し合ってまちづくりに取り組んでいくためには、意見や情報を交換し合い、交流する場が必要です。中でも少子・高齢化が進み、男女共生社会を目指す現代社会<sup>P25</sup>にあっては、世代や性別を越えた交流の機会が大切です。

一方、まちづくりの活動には、ボランティアやリーダーの存在が重要な要素であり、こうした人材の発掘や育成と活用に向けた取り組みも必要です。さらには、市民の新たな社会活動参加の場として、また、市民の自己実現の場としても期待が高まっているNPO活動の促進策や連携に向けた取り組みも重要な課題です。

### 3 市民と行政の協働の仕組みづくり

生涯学習は、総合的かつ体系的に推進されなければならないため、全庁的に施策を展開する推進体制の整備充実が重要です。また、生涯学習の視点に立ったまちづくりの施策を展開していくためには、生涯学習の理念が全職員に理解され、生涯学習によるまちづくりをすすめていこうとする職員の意識の高揚が必須です。

さらには、市民の生涯学習活動やまちづくりに関する参加意欲を高めるために、市民と行政の間に立ち、市民の生涯にわたる学習を促進する市民組織の充実も重要です。

とりわけ、生涯学習を通じた市民と行政の協働によるまちづくりを推進するためには、市民と行政の推進組織がそれぞれの役割と責任を果たしながら、ネットワーク化や協働の仕組みづくりに取り組むことが重要です。